



岩手県人会ニュース

193

ふるさとだより ⑦ 記事提供 岩手日報新聞社 *Iwate News*

2016年9月発行

海外最大の日本まつり

約17万人が入場 ブラジル・サンパウロ 19° Festival do Japão



岩手県人会は、**なごねんしゅひん** 長年出品している岩手のワカメを使用した「三陸わかめうどん」が**めだま** 目玉で、わかめソバ、コロッケ弁当、コロッケ（ブラジル特産の**とくさん** キャサバ、Mandioca を使用）、ギョウザの



5品目で**うあ** 殆どを売り上げた。
毎回、**まいかい** 物品搬送、**あじつけ** 味付けや**じゆん** 食賄い、**きやく** 準備裏方、**まいにち** 客の**めいちか** 対応と毎日30名近くの**ボランティア** に感謝を述べたい。

今年も7月8日～10日と、今では日系団体最大の祭となった、ブラジル都道府県人会連合会（県連）主催による「第19回日本まつり」（Festival do Japão フェスバルド ジャポン）が、新装なった EXPO SÃO PAULO 会場で開催され、晴天に恵まれ昨年を上回る16万8000人が入場した。

祭りのテーマは「スポーツと健康」で、開催が迫っているリオ・オリンピックや4年後の「東京オリンピック」にちなみ、東京五輪組織委員会も出展し、おもてなしに「足湯」を設置した。



食ブースは46県人会、他7慈善団体が参加。各県人会は郷土食や自慢のあらゆる「食」が提供され、各ブースは客が長蛇の列を作り、テーブルはどこも一杯で、舌づつみと熱気で盛上った。

祭に欠かせないスポンサーとして日本関連企業、日本政府関係、コロンビア日系企業、文化団体、日本食関係、バザー店、中央や側面



に郷土食53店舗が立ち並び、文化ひろば広場ではスポーツなどさまざまな日本文化を伝えている。芸能ステージもあり、日系団体の40種以上の芸能が披露され、ミスコロンビア選出もあった。場外には「盆踊り特設舞台」設置され、こちら40近くの盆踊りや団体芸能を堪能できた。



祭りを振り返ると21年前、岩手県人会と他3県人会青年部合同による「寿司まつり」を開催。寒い時期であり温かい岩手の郷土料理「けんちん汁」を用意し喜ばれた。時の県連会長さんが「けんちん汁」を賞味し、寒いときは温まると喜んだ。

各県には「美味しい郷土料理」があるんだと「ヒント」を得て、県連役員会や各県人会に計りイピラブエラ公園の特設会場で「郷土食祭り」を開催した。良く覚えていないが数万人の客で賑わった。以後回を重ね発展し「日本まつり」となった。（次頁へ）



写真 県人会太鼓「雷神」の演奏



けんれんとくべつ
県連特別ホールでは、
スポンサーなどを迎
え各県自慢の郷土食
が並べられ、試食会
が行われた。岩手は
「三陸わかめうどん」「コ
ロッケ弁当」「コロッケ」
などと酒「南部美人」

を展示し試食して頂いた。

最終日だったか釜石出身でJICA シニアボランティアの興浦幸二、香
奈枝夫妻が、来訪され一時懇談し懐かしい話で盛り上がった。

夫妻は、マリリア市で野球の指導や普及にあたること。興浦さんは昔

プロ野球の「阪神」に15年間に在籍したと云う。
写真 左端が興浦さん中置いで中央が奥さん。



リオで「鬼剣舞」勇壮に舞う



リオデジャネイロで開催中の第31回オリンピック期間中の、8月19
日、4年後の東京オリンピック広報施設「東北&東京・イン・リオ」で、
岩手（鬼剣舞、北上市）、福島（じゃんがら念仏踊り）、東京は（江
戸鳶木遣）など日本古来の伝統芸能で、東北復興支援に感謝を表した。

岩手県から鬼流鬼剣舞一行20名
が参加との報を受け、庭元の菅原
晃さんと連絡を取りあった。氏は県人
会20周年（1978年）式典に参加
され、剣舞の披露や指導をされ、会
員皆さんに大歓迎を受け感動。「恩
が返し」の為に是非参加したかった云
う。

県人会では、岩手古来の芸能披
露に参加の報に独自に、ご挨拶を考
えていた。折良く県人会連合会
でバスツアーの報を聞き、会員5名、
総勢46名で18日深夜発。20



19日早朝リオ着した一行は、近くを散策したり、ケーブルでポンデア
スカール（ウルカの丘）にあり風光明媚な海岸線を堪能。

午後会場着した一行は、超近代的な建物内に設けられた展示施設
では日本をアピールする各種
パネルが並び、各県の風景写
真に特産品が展示され、書
道、茶の湯、着物体験などを
視察した。

会場では鬼剣舞一行や岩手
日報社の斎藤孟スポーツ記者
が待っていた。出演準備をし
ていた皆さんにご挨拶。昔の
資料を双方で持寄り懐かしく語
りあったが、残念ながら当時の役員はじめ会員関係者は殆ど亡くなられ
ている事情を話した。20周年式典には私（千田）も出席したが、当
時の会員や家族で健在なのは僅かで、当時を知る方々は少ない。

郷土芸能鬼剣舞は、一番庭、
宙返り、膳舞、刀剣舞の狂いを順に
舞った。映像やパラグアイのイグアス
やピラポの2県人会で若い人が舞うの
を見ているが、本場の舞を見るのは
初めてで、勇壮で圧巻された舞であっ
た。

18日にはリオ市内のマウア広場で
公演、19日、午前にはテレビ取材
で無い、本番とハードなスケジュール
だったと菅原さんの報告。

県人会活動は相互の親睦はじめ人的交流も、大事だとつくづく感じた
一日だった。

★ リオで
撮影した鬼
剣舞のビデオ
は、YouTube
onikenbai rio
2016でご覧に
なれます。



- 6月4日 定例役員会開催 議題は日本まつりなど
- 11 県連主催第19回日本まつり説明会に会長、多田副会長出席
- 13 会報192号、ふるさとだより⑥併合を国内外へ発送
- 18 日本移民108周年記念先亡者慰霊追悼法要へ会長出席
- 25 エスポイミグランテで行われた日本まつり説明会に多田副会長出席
- 30 県連代表者会に会長出席
- 7月2日 新潟県人会創立60周年前夜祭に会長夫妻、多田副会長出席
- 3 新潟県人会創立60周年式典に会長夫妻出席
- 7 日本まつり会場に道具類運び込み
- 8,9,10日第19回日本まつりに出席
- ★ 釜石出身でJICA シニアボランティアの興藤幸、香奈枝夫妻
- 12 興藤夫妻会館訪問一時懇談、赴任地はマリリアで野球の指導
- ★ 平泉町出身の戸田修さん来館。目的はオリンピックを観戦
- 北上市鬼柳鬼剣舞の庭元菅原晃氏より、リオ公演について受信
- 21 岩手日報紙に海外県人会だより「日本まつり」記事掲載
- 28 県連代表者会に会長出席
- 30 日本まつりなどの慰労会を行う 50 余名参加

- 31 茨城県人会創立 55 周年式典に会長夫妻出席
- 8月7日 ブラジル都道府県人会創立50周年記念式典に会長夫妻、多田



副会長出席。河村武雄衆議院夫妻（中央）もお祝いに出席された。

- 12 20 キロ競歩高橋英輝選手のテレビ応援観戦会に25名参加
- 13 監査役会、役員会開催
- 19 リオのジャパンハウスで郷土芸能「鬼剣舞」一行を県人5名が参加
- 25 県連代表者会に会長出席
- 28 第60回会員交流誕生会あり



8月28日、第60回目となる「会員交流誕生会(60。Confraternização)」が、正午より行われ、会員家族など約50名が親睦

だい かい かい いん こうりゅう たんじょう かい 第60回会員交流誕生会

を深め、5月から8月生まれの誕生者を祝った。
千田会長は挨拶で、県人会諸活動や交流事業が出来たのは、会員の理解と若い方々の協力によるものであると感謝を述べた。

藤村
光夫相
談役の
音頭で乾
杯、会員
持寄りの
料理で食
事をしな
がら、会
員同士の
懇談で交流を深めた。



リオ・オリンピック開催中の19日、東京ジャパンハウスで公演した北上市の「鬼剣舞」ビデオや歌謡番組などを鑑賞。
食事後、皆さんが楽しみにしている「ピンゴ」を開催、会提供の「ケーキ」を囲み誕生者を祝った。
のち、カラオケを楽しむ、交流会であった。

会費納入者名 (2016年度・敬称略)

- 5月 大崎孝行 (Takayuki Oosaki),
- 6月 高橋信男 (Nobuo Takahashi),
- 峰キョウコソファ (Sofia Kyoko Mine), 山田エツコ (Etuko Yamada),
- 7月 服部葉子 (Yoko Hattori), 山中正二 (Shoji Yamanaka),
- 千田功 (Isao Chida 新、一関出身), 稗貫義友 (Yoshitomo Hienuki),
- 8月 志賀光 (Hikari Shiga) 小松武 (Takeshi Komatsu 新),
- 及川まゆみ (Mayumi Oikawa), 泉まさひろ (Masahiro Izumi),

寄付・寄贈 お茶菓子 多数。

図書 神奈川県
在の賛助会員増田
稲子さんから、6月
29日貴重な図書類
129冊が届いた。
来訪者多数から図
書寄贈あり



事務所来館者数 (1階Hポール利用者は含まれません)

5月 424名、6月 313名、7月 345名、8月 381名

図書室利用

5月 430冊 92名、6月 455冊 103名、
7月 481冊 122名、8月 448冊 115名。

ブラジル日本移民108周年 開拓先亡者慰霊法要

6月18日、ブラジルへ最初の日本人移民船「笠戸丸」が、サンパウロ州サントス港へ到着してから108周年を迎えた。

サンパウロでは早朝サンゴンサロ教会で慰霊ミサ、県連主催法要、文協主催法要（県連、文協は仏教連合会共催）で、各県人会や総領事、主要団体関係者を迎え、開拓先亡者への慰霊追悼法要が行われた。



ブラジル日本都道府県人会連合会では、イビラプエラ公園内に設けられている「開拓先亡者慰霊碑」に於いて、午前10時半から仏教連合会による仏式法要が執り行われ、中前隆博総領事はじめ各県人会代表など約100名が参列した。

慰霊碑前には各県人会が先人達の「過去帖」が奉られた。山田康夫県連会長は「190万人とも云われる日系社会の今日は、先人達の志を果たせず道半ばで亡くなった方々の思いは、一言では表せない」移民の日は、先人たちに思いを馳せ追悼したい。と感謝した。中前総領事、日系団体代表に引き続き県人会関係者や一般人など、先人の御霊を祈り焼香した。

テレビ観戦応援会 競歩20キロ代表 高橋選手（花巻市出身）

8月12日（金）リオ・オリンピック種目、競歩（A marcha atlética）20キロ代表3名中に花巻市出身の高橋英輝さん（23才）が、出場するというの衛星放送中継局の追加や、インターネット局BS11用とテレビ2台を設置した。観戦者25人が集った。中継時間を過ぎて両局とも変更され中継されない事態に。山野サ紙記者が調べたところテレビ東京を選局。競歩が始まっていた。日本選手は前半上位をしめていたが、後半後退しゴールは中国の王選手が1時間19分14秒の記録。永松7位、藤沢21位、期待した高橋選手（自己記録1時間18分03秒）は42位だった。（体調不良？）

高橋選手はまだ若いので、4年後の東京オリンピックに期待したい。旅行者で平泉出身の戸田修さん（40）は、高橋選手は体調を温存して、後半スパートをかけるのではと楽観していた。高橋選手の上位はならなかったが、皆さんに応援して頂いた事に、意義があったと感謝したい。終了後、「ソバ」を振舞いを労った。



6月11日サンパウロ日本人学校（吉田直人校長）で運動会が開催された。昨年に続き学校の先生から、県人会ハッピー借用の申し入れがあり50着を貸出した。返却にあたり写真と生徒を代表し鈴木さんからお礼状が添えられた。拝啓、朝晩の冷え込みが厳しい日が続きますが、岩手県人会の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。先日は、私たちサンパウロ日本人学校5・6年生のために法被をお貸し頂き、ありがとうございました。私はソーラン節の実行委員として皆を引張る立場でしたが、法被に袖

日本人学校 県人会ハッピー運動会で活用

とお、気持ちが一層引しまり、やる気が満ちてきました。当日は間違える事もなく、大成功に終わりました。一生懸命練習した成果を十分に発揮でき、達成感と喜びいっぱいでした。小学校最後の運動会で、とても良い思い出ができました。サンパウロは、外国でありながら、日本文化が息づく素敵な所だと思います。これからも、日本の文化や伝統を守りついでいて欲しいです。最後になりましたが、岩手県人会の皆さまのご健康とご活躍を、心からお祈りしております。



敬具
平成28年6月21日
サンパウロ日本人学校
6年1組
鈴木 紫帆



鈴の音奏で田園行進

滝沢ー盛岡でチャグチャグ馬コ

赤や黄の色鮮やかな装束をまとった約70頭の馬が、鈴の音を鳴らしながら田園地帯や市街地を進む初夏の伝統行事「チャグチャグ馬コ」が11日、盛岡市などで開催された。

編みがさ姿の小学生らを乗せた馬の行列は、滝沢市の鬼越蒼前神社から、盛岡市中心部の盛岡八幡宮に向けて約13キロを行進した。

田植えに従事した農耕馬を休め、無病息災を祈って神社へ連れて行く風習が起源とされ、江戸時代ごろから華やかな装束を着せるようになったと言われている。鈴が奏でる「チャグ、チャグ」という音が名前の由来。国の無形民俗文化財に登録されている。＝11日午前9時32分、滝沢市鶴飼】(2016/06/11)

皇太子ご夫妻

岩泉など視察 21日被災者と懇談も

皇太子ご夫妻は20日、東日本大震災の復興状況を視察するため1泊2日の日程で本県入りされた。岩泉町と宮古市で復興事業の説明を受けたほか、同町の小本地区では住民と言葉を交わし、被災者らへ励ましの言葉を掛けられた。

ご夫妻は同日午後、新幹線でJR盛岡駅に到着し、達増知事らが出迎えた。盛岡市内から岩泉町を経て宿泊する宮古市までの沿道では多くの住民が歓迎した。

同町の小本津波防災センターでは伊達勝身町長が説明に立ち、ご夫妻は災害公営住宅に入居する住民とも会話。ご夫妻は初日を振り返り、「インフラや産業の整備も進んでいることが分かりました。小本

区で新居での生活を始められるに至るご苦労も、いかばかりであったかと思えます」と述べられた。

ご夫妻の来県は釜石市で被災者を見舞った2013年11月以来。21日は宮古市田老の防潮堤や高台移転団地を視察するほか、仮設住宅や災害公営住宅の入居者と懇談される。



【写真＝小本津波防災センターに到着され、町民に手を振る皇太子さまと雅子さま＝20日午後4時37分、岩泉町小本】(2016/06/21)



はかま姿でレトロ列車に 三鉄の新アテンダント

三陸鉄道の南リアス線のレトロ列車で、今月から矢がすりの着物とはかま姿の女性2人がガイドを務める。

30日にアテンダントの鈴木真佐美さん(45)と今野未菜さん(22)が衣装をお披露目。鈴木さんは「レトロな雰囲気を楽しんでほしい」と意欲を示す。

同日から運行を始めた「ランチ&スイーツ列車」でデビュー。北リアス線の「あまちゃん」に負けじと、明治大正の薫り漂う三鉄車内を「ハイカラさん」が通る。

【写真＝「ハイカラさん衣装」でイベント列車をPRするアテンダント】(2016/07/01)

新人海女、笑顔のデビュー

久慈・素潜り実演始まる

小袖北限の海女の会(大向広子会長)の素潜り実演は2日、久慈市宇部町の小袖漁港で始まった。ベテランによる華麗な素潜りのほか、4月に同市の地域おこし協力隊に着任した前田比奈さん(24)＝千葉県茂原市出身＝が新人海女として素潜りに挑戦し、港を盛り上げた。

同町の小袖海女センター付近の海中で行い、1回目の実演には観客約50人が訪れた。同日の海水温は約17度で、前田さんは潮の流れや冷たい水温に苦戦。それでも、採ったウニを観客に掲げて見せると、拍手を浴びた。



素潜り実演は9月末まで。土日と祝日に1日3回行い、平日は10人以上の団体予約に限り実施する。見学料は1人500円。海女が収穫したウニは1個500円で販売する(漁況で変更あり)。

予約・問い合わせは同センター(0194・54・2261)へ。【写真＝初めての素潜り実演を終え「観光客らに元気を与えたい」と語る前田比奈さん(左)】(2016/07/03)

近づく本番、舞息合わせ 岩手国体・式典全章練習



岩手国体総合開会式・式典前演技の全章練習は3日、北上市相去町の北上陸上競技場で初めて行われ、約1700人の出演者が全体の

流れを確認。90日後に迫った本番に向け、熱のこもった練習を繰り返した。

演技は花巻市の南城小と県内の特別支援学校児童による朗読で幕開け。大漁旗が並ぶグラウンドで釜石虎舞や鬼剣舞、創作ダンスや盛岡さんさ踊りなどを繰り広げ、第1～4章を通した出演者の動きをチェックした。ダンサーを務める盛岡白百合学園中3年の生徒は「初めての全章練習で本番が近づいていると実感した。完成度を高めていきたい」と意気込む。

釜石市の白浜虎舞好友会の佐々木幹郎会長（32）と箱崎虎舞保存会の川崎功会長（43）は「支援への感謝と復興へと歩む釜石のエネルギーを舞で表現したい」と力を込めた。

【写真＝初めての全章練習で動きを確認する出演者＝3日、北上市相去町】(2016/07/04)

「命の道路」早期完成を 山田、大沢トンネルで祈願祭

県が復興関連道路と位置付ける県道重茂半島線の大沢トンネル（265メートル）の工事安全祈願祭は11日、山田町大沢の現地で行われた。東日本大震災で道路が寸断した経験を踏まえて始まった道路整備。児童らの完成を待ち望む声に、工事関係者は一刻も早い完成へ思いを新たにされた。

県、地域住民ら約80人が出席し、工事の安全を神事で祈った。住民を代表してあいさつした大沢小6年の児童は保育園年長時に被災し、道路が寸断し孤立して不安に感じた体験談を交え、「新しい道路は私たちの命の道路。雨の日も風の日も、毎日汗を流して頑張ってくれてありがとう」と工事関係者に感謝の思いを伝えた。

県道重茂半島線は同町大沢を起点とし、宮古市津軽石に至る重茂半島を周回する唯一の道路。震災時に寸断し住民ら約1850人が孤

立した経験を踏まえ、最大で約1キロ内陸側に移動した浸水域を回避した道路を工事している。このうち、同トンネルは大沢一浜川目間（約



2・8キロ）の大沢小付近に位置し、県道と国道45号を結ぶ。20日ごろに本体着工する予定。総工事費は約10億円で、主に復興交付金を利用する。県道、トンネルとも2017年度中の完成を目指す。

【写真＝工事祈願祭後、トンネル部分や工事機械の見学をする大沢小の児童】(2016/07/12)

.....
勇壮に練り歩いた。

清め水浴び、キリリ勇壮 平泉水かけ神輿



平泉水かけ神輿（みこし）（平泉総社神輿会主催）は17日、平泉町内で行われ、大中小3基のみこしが清め水を浴びながら

町内や友好都市の東京都江東区などから約300人の担ぎ手が参加し、小雨が降る中、観自在王院跡を出発。毛越寺境内、JR平泉駅前、中尊寺、平泉文化遺産センターなどを巡った。平泉駅前では沿道から多くの人がバケツやホースで容赦なくみこしや担ぎ手に水を掛けてにぎわった。夏の風物詩として定着してきた水かけみこしは1996年から始まり、今年で21回目。【写真＝沿道から容赦なく掛けられる清め水を浴びながら勇壮に練り歩く担ぎ手たち】(2016/07/18)

【名古屋市で東京支社・本波勉】大相撲名古屋場所13日目は22日、名古屋市の愛知県体育館で行われ、盛岡市出身で西前頭14枚目の錦木（伊勢ノ海部屋、盛岡・米内中）は東十両2枚目の英乃海（ひでのうみ）を寄り切って8勝5敗とし、幕内昇進後初の勝ち越しを決めた。

県人力士の幕内勝ち越しは、2007年3月の春場所で8勝を挙げた久慈市山形町出身の栃乃花（春日野部屋、現二十山（はたちやま）親方）以来9年ぶり。

【写真＝錦木（右）が寄り切りで英乃海を破り、幕内で初めての勝ち越しを決める＝22日、名古屋市・愛知県体育館】(2016/07/23)

錦木が幕内 初勝ち越し

大相撲、 県人力士 9年ぶり



盛岡の夏彩る笑顔の舞 さんさ踊りが開幕

色鮮やかな浴衣を着た踊り手が、太鼓や笛の軽快なリズムに合わせて街中を舞う盛岡市の夏の風物詩「盛岡さんさ踊り」が1日、開幕した。短い夏を彩る笑顔の舞に、観客は大きな声援と拍手を送った。4日までの期間中、延べ3万5千人が踊りの輪に参加する。

夏らしい熱気が残る夕暮れ



時、太鼓の音が街に響く。踊り手や観客の幸せを願う「サッコラチヨイワヤッセ」という掛け声とともに、数千人が盛岡の中心街を約1

キロ踊りながら練り歩いた。

さんさ踊りは、江戸時代に盛岡で暴れたと伝えられる鬼の退散を祝い、人々が喜び踊ったのが由来とされ、例年130万人の観客が訪れる。【写真＝開幕した「盛岡さんさ踊り」で太鼓を鳴らしながら練り歩く踊り手たち＝1日夕、盛岡市】(2016/08/01)

川面の炎、夏送る 盛岡で舟っこ流し



盛岡市の送り盆行事で市無形民俗文化財の盛岡舟っこ流し（協賛会主催）は16日、同市の明治橋上流付近の北上川で行われた。炎に包まれた精霊舟がゆっくりと川を下り、市民らは先祖や東日本大震災の犠牲者らに思いをはせて見送った。

竜をかたどった舟13隻が参加。短冊やちょうちん、折り鶴などで飾った舟は、町内会や自治会が約1カ月かけて仕上げた。男衆が肩まで水に漬かり舟を引いて火を放つと、花火や爆竹がとどろき、あっという間に燃え盛った。

協賛会の佐藤修会長（70）は「伝統を引き継ぎながら、昨年からは出店など新しいものも取り入れている。若者の参加者も増えてきた」と地域に根付く送り盆行事の継承に知恵を絞る。

【写真＝先祖の霊を送る炎に包まれながら北上川を下る精霊船】(2016/08/17)

いざ、リオへ大井さん決意 洋野でパラ五輪壮行式

洋野町は30日、同町種市の町役場種市庁舎で、リオデジャネイロパラ五輪の陸上男子砲丸投げに出場する大井利江選手（68）＝同町種市＝の壮行式を行った。町民や町職員ら100人以上が駆け付け、4大会連続出場を祝うとともに本番に向けエールを送った。

大井選手は日本代表のユニホームを着て登場。水上信宏町長は「出場はチャレンジ精神と努力が結実した結果。活躍によって町民に勇気や希望を与えてほしい」と激励した。花束を受け取った大井選手はメダルを目標に掲げ、「多くの支援、応援のおかげで夢の舞台に立つことができました。最高のパフォーマンスで期待に応えたい」と決意表明した。大井選手はアテネ、北京大会の円盤投げでそれぞれ銀、銅メダルを獲得。今回は投てき台を使用するF53クラスの砲丸投げに出場する。本県の出発は9月4日。砲丸投げは日本時間の14日午後10時ごろ競技開始の予定。【写真＝本番に向け意気込みを語る大井利江選手と妻須恵子さん】(2016/08/31)



岩手県人会ユニーク193号、ふさふさとしたおひげ ⑦ 併合 2016年9月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

ブラジル岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



リオで鬼剣舞、県人会へ恩返し 北上・庭元の菅原さん

【リオデジャネイロで運動部・斎藤孟】北上市の鬼柳鬼剣舞の20人は19日、前日に続いてリオデジャネイロ市内で勇壮な舞を披露

し、日本の伝統芸能の魅力を発信した。19日はブラジル県人会（千田曠暁（ひろあき）会長）とも交流。38年ぶりのブラジル訪問となった庭元の菅原晃さん（69）は「当時からの思いが成し遂げられた」と、迫力ある舞に県人会への恩返しの思いを込めた。

同日は東京五輪組織委などの拠点のジャパンハウスで約10分間公演した。「一番庭」、最大8本の刀を使う「宙返り」、膳を使った「膳舞」、「刀剣舞の狂い」の組み踊りを発表した。

太鼓で舞をリードした菅原さんは1978年、同県人会20周年に合わせた伝承活動指導でブラジルを訪れた。2週間の滞在で、千田会

長の父・故安治さんらに世話になった恩は今も忘れない。現地を案内されたり、県人会の会員宅に招待されるなど大歓迎を受けた。ただ、

演舞は先輩と2人だけのものしか披露できず、「いつか本物の踊りを見せたい」と長年、心にためていた。

今回は囃子方（はやしかた）と踊り手の計20人で渡航し、念願をかなえた。菅原さんは「思いが成し遂げられた。うれしいよりもほっとしている。たくさんの歓声ありがたい」と感謝した。

【写真＝「38年前の恩返しができた」と千田曠暁会長と握手し、感謝を伝える菅原晃さん（右）＝19日、リオ

デジャネイロ】（2016/08/21）

